

なるほどの♪



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

9月号

「めあて—まとめ・振り返り」の徹底を通じた授業改善の取組 ～西部地区全ての先生による日々の授業づくり～

学力向上については、各地区の施策に基づいた取組や各学校の実態に応じた課題解決を図る取組が着実に進められていることと思います。先月、市町村教育委員会と県教育委員会で今後の学力向上策について協議を行い、西部地区の全ての先生で「めあて—まとめ・振り返り」を生かした授業実践を進めることを確認しました。この取組は次期学習指導要領の重点的な取組であるとともに、校種や教科に関係なく、全ての授業のベースとなる取組であると考えています。

「めあて—まとめ・振り返り」を位置付けた授業づくり (実践編)

「めあて—まとめ・振り返り」を位置付けた小学校算数科の実践事例を紹介しています。授業づくりは、付きたい力を具現化した「まとめ」から構想し、「まとめ」の問いとなる「めあて」につなげていきます。本号では「めあて」「まとめ」「振り返り」の考え方について整理しています。全ての先生で実践化される際の参考資料として、御活用ください。

全ての子供にとって居心地のよい学校づくり ～いじめの未然防止と早期発見で、全ての子供が活躍する2学期へ～

子供が新たな一面を見せる2学期がスタートしました。運動会や文化祭等様々な行事を通して子供が成長していく学期であるとともに、個として集団として大きく変化する時期です。

夏休み明けの子供たちの小さな変化を「チーム学校」として見取り、情報を共有するとともに、アンケート結果等を有効活用することで、全ての子供にとって居心地のよい学校が実現されと考えています。

「めあてーまとめ・振り返り」の徹底を通じた授業改善の取組
～西部地区全ての先生による日々の授業づくり～

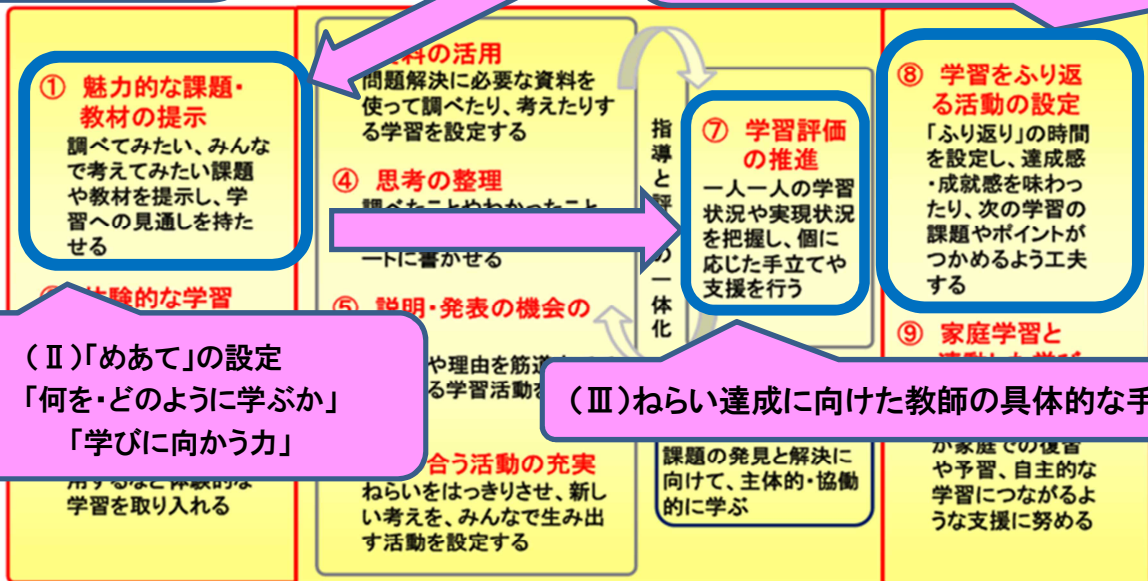
学力向上については、各地域の施策に基づいた取組や各校における実態に応じた課題解決の取組が熱心に進められているところです。その一方、全国学力・学習状況調査においては、数年来にわたり課題が見られる実状もあります。そこで、子供たちの学力保障のため、次なる方策について、市町村教育委員会と県教育委員会で協議を行い、全ての先生で「めあてーまとめ・振り返り」を生かした授業実践を徹底することで、学力向上を図ることになりました。この取組は、既存の取組を否定するものではなく、全ての授業づくりのベースとなる取組です。子供の主体性を引き出し、指導内容の確実な定着を図る授業を全ての先生によって実践化することで、子供たちの学力向上を実現していきましょう。

全ての先生が子供たちの学力向上のために、日々取り組む授業づくり【10の視点】

- ① 本時の評価規準を「まとめ」として具体化
- ② 「まとめ」の問いとなる「めあて」の設定

鳥取県の子どもたちが、さ
ととりの 授業改革

(I)「まとめ・振り返り」で子供から引き出したい言葉の事前の想定と授業での確認
～全ての子供が「まとめ」をアウトプット～
「何ができるようになるか」

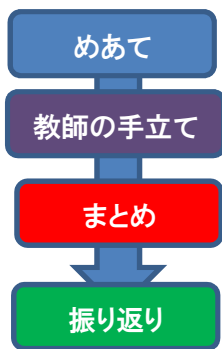


(II)「めあて」の設定
「何を・どのように学ぶか」
「学びに向かう力」

(III)ねらい達成に向けた教師の具体的な手立て

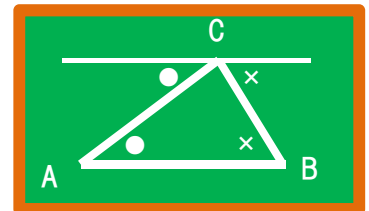
⑩落ち着いたのびのびと学べる環境づくり(学びの集団・人間関係づくり)

めあてーまとめ・振り返りの関係性【例中学校2年生数学科】



平行線の性質を使って、三角形の内角の和が180度であることを説明しよう。

※子供が自己評価できるめあてを設定



頂点Cを通り、底辺ABと平行な線をひく。平行線の錯角は等しいので三角形の内角の和は180度になる。

※「分かったこと、できたこと、考えたこと」等を子供自身が自覚的に書く・話す場

「めあて—まとめ・振り返り」を位置づけた授業づくり(実践編)

問題 ジュース $\frac{2}{5}$ Lと $\frac{1}{5}$ Lをあわせると何Lですか。

分母は同じだね。

めあて 分母が同じ分数のたし算の仕方を考え、説明しよう。

式 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$

整数ならかんたんだけど、分数でもたし算できるのかな。

- ・答えも分数になりそうだ。
- ・分子も分母もたしてみよう。
- ・「1Lます」の図をかいて考えよう。
- ・線分図で表してみよう。

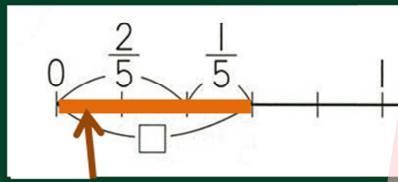
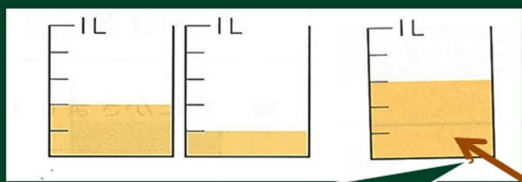
答えが1をこえてもいいの？

まとめ

分母が同じ分数のたし算は、もともになる分数の何こ分になるかを考えれば、整数と同じように計算することができる。

練習問題

- ① $\frac{2}{7} + \frac{3}{7}$ の計算の仕方を考えて、説明しよう。
- ② $\square + \triangle$ ←□や△にいろいろな数を入れて計算しよう。



1Lを5つに分けた「ます」を使っているから、たし算をしても分母は同じだ。

1を5つに分けた3つ分なので、答えは $\frac{3}{5}$

式 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{5}$

答え $\frac{3}{5}$ L

もともになる分数

$\frac{1}{5}$ が何こ分になるかを考えると...

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が ② こ

$\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が ① こ

あわせて、

$\frac{1}{5}$ が (2+1) こなので

$\frac{3}{5}$ になります。

整数で計算できる！

【めあての設定】

何を学ぶか、どのように学ぶかを明らかにします。

○子供の気付きや疑問を取り上げ、子供と共にめあてをつくりましょう。

○子供自身が、達成度を自己評価できるようなめあてにしましょう。

自分一人でも、計算の仕方を説明できたよ。



子供の主体性を育て、学習内容を確実に身に付ける指導につながります。



【学習のまとめをどう導くか】

追求したことを基に、「めあて」に対する答えの形でまとめます。まとめは、全員アウトプットを目指しましょう。



黒板の黄色のキーワードを使って、ノートにまとめを書いてみよう。



キーワードを合わせれば、自分でまとめがかけよう。

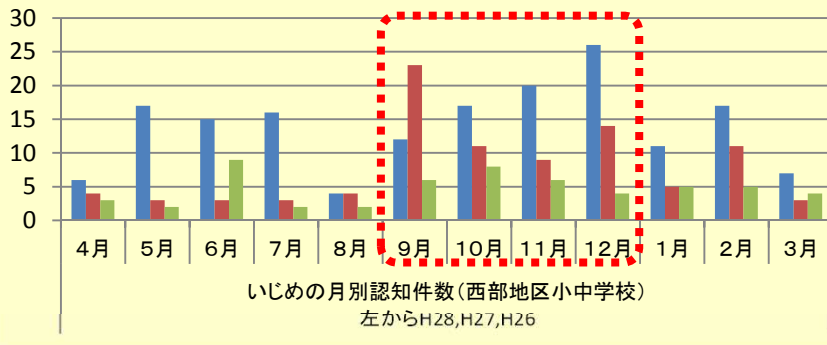
【振り返りをどう導くか】

「解決した過程・学び」「獲得した知識・技能」「情意面」等を合わせ、子供が自覚的にまとめます。

例)「はじめは、分母と分子をそれぞれたし算して3/10になると思ったけど、1Lますの図にかいてみたら、1/5が3つ分だから、分母はたさなくてもいいということが分かりました。練習問題もかんたんにできました。分母より分子の方が大きくなる場合の計算の方法について、次の時間に考えてみたいです。」

全ての子供にとって居心地のよい学校づくり ～いじめの未然防止と早期発見で、全ての子供が活躍する2学期へ～

様々な行事を通して子供が成長する2学期。充実した学校生活の中で力を発揮している子供がいる一方、「集団から孤立している」「表情が暗い」等、気がかりな言動や表情が見られる子供はいませんか？



左のグラフを見ると、

2学期は、いじめの認知件数が1年間で多くなる時期である

ことが分かります。「気がかりな言動や表情の背景に、いじめがあるかもしれない」という視点をもって、個々の子供や集団の些細な変化を敏感に捉え、いじめの未然防止と早期発見、適切な初期対応につなげましょう。



「鳥取県いじめ防止対策ガイドブック 笑顔でつながる」(鳥取県教育委員会)を参考に作成

気になる子供や集団の姿(例)

いじめが潜んでいる可能性がある時に見られるサイン

- サインや隠語を使っている。
- 教師が近づくと、グループが不自然に分散したり、急に仲のよいふりをしたりする。
- 班や座席を決めるときにスムーズに決まらない。
- 班長やリーダーを決める時に立候補しない。
- 掲示物に落書きが見られたり、画鋏等で傷がつけられたりしている。等



いじめられている時に見られるサイン

- 笑ってごまかそうとする。
- 周囲に過度な気遣いがみられる。
- 行事の練習で見学することが多くなった。
- 用もないのに保健室や職員室などに来て時間を過ごすことが多くなった。等



「チーム学校」として夏休み明けの子供を見取っていきましょう！！

子供に対する教師の思い込みをリセットする

- *問題行動が目立つ子供や行事のリーダーとなる子供に目が向き、アピールの無い子供が置き去りにされていないか？
- *教師から見て「困った子供」は、実は「困っている子供」ではないか？



夏休み中、学校から遠ざかっていた子供の様子を注視する

- *部活動に参加しなかったために、参加へのきっかけを失って距離感を感じている子供がいいるか？

「個々」と「集団」の両面から、子供の変容や様子を見取る

- *行事の練習時間や話し合いの時間など、子供だけで過ごす時間の把握はできているか？

いじめの早期発見につながるアンケートの活用例

【アンケート項目の例】

- ・学校が楽しいですか。
- ・先生に相談したいことがありますか。
- ・今、困っていることがありますか。
- ・この頃、嫌な思いをしている友達がいませんか。

「『いじめ防止に係る無記名アンケート』について」も参考にしてください。
※いじめ・不登校総合対策センターHPからダウンロードできます。

- ・無記名式
- ・選択式
- ・少ない項目数
- ・毎月一回実施



- ◆短時間で実施・集約ができる。
- ◆○をやるだけなので、書いている様子が周りの友達にも分からず、安心して回答できる。

ここがポイント

その日の内に確認 → 面談につなげる

- 教師が回収し、ある程度子供が特定できるようにしておく。
- 個人が特定できない場合には、学年団で子供の状況について協議する等、組織での対応を強化する。

アンケート結果を生かした教師のアクションは、「先生は助けてくれるんだ」という教師への信頼や、何かあった時には次のアンケートで○をつけよう、という子供自らのシグナルの発信につながっていきます。